

2022年産 大豆「えんれいのそら」栽培こよみ

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

【目標】 圃地化率:80%以上 収量:200kg/10a 品質:1~3等比率と大粒比率の向上 「とやまGAP」の実施及び生産記録簿記帳100%

月別	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月
旬別			下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	

主な作業

基幹排水
H2O

除草剤散布
耕起・整地
施肥

1回目培土
播種20~25日後
(本葉2~3葉期)

2回目培土
播種30~35日後
(本葉4~5葉期)

防除(随時)
ウコンノメイガ

基本防除(1回目)

基本防除(2回目)

畦間かん水
開花期以降晴天が続いたら実施

雑草の抜き取り
タネ類等大きな雑草や青立ち株を除去

収穫

次年度作付圃場の準備

播種 出芽・苗立 生育期 開花期 着莢始め 莢伸長期 子実肥大期 黄葉期 落葉・成熟期

栽培のポイント

- ①排水対策を徹底
- ②石灰質資材・堆肥等の積極的施用
- ③過剰施肥の防止
- ④極端に早い播種を回避
- ⑤播種時期に応じた適正な栽植本数の確保
- ⑥晴れ間を逃さず2回培土の実施
- ⑦病害虫防除の徹底
- ⑧開花期~9月上旬は早めの畦間かん水
- ⑨圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に刈取り開始

莢先熟が発生した生産者は★の対策を徹底しましょう!

葉巻が見られたら防除
1株に6個以上の

葉巻とウコンノメイガ幼虫

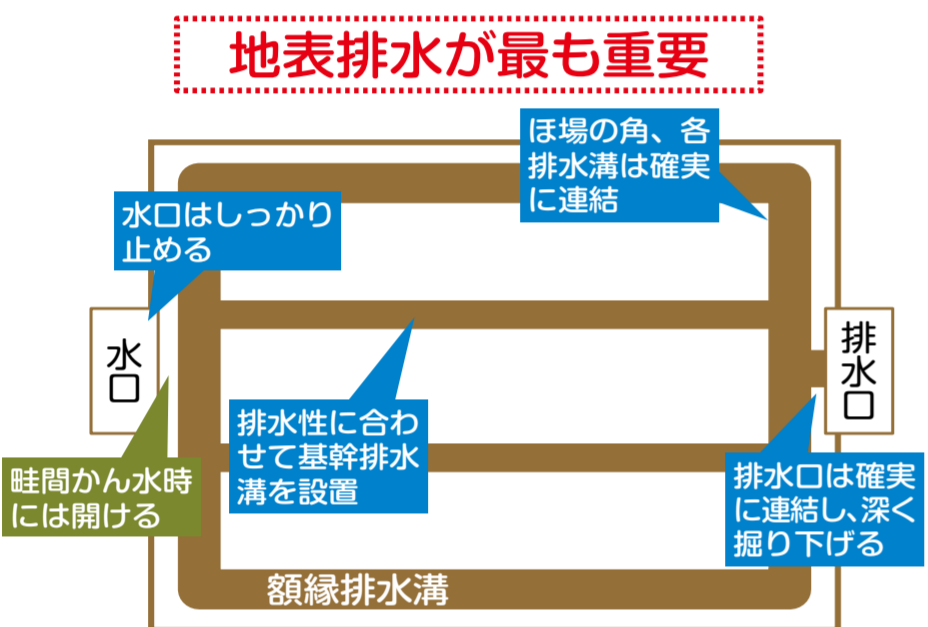
イチモンジカメムシ

紫斑病

ハスモンヨトウ

適期収穫で、しわ粒や汚損粒にしない
圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に収穫開始

① 早期排水対策



排水対策の効果

- ・ 砕土率が上がり発芽・苗立ちが良くなる
- ・ 除草剤の効果が向上
- ・ 根量が増え、根粒菌も増える
- ・ 病害(茎疫病、黒根腐病)の発生抑制

② 土づくりと施肥

- ★地力の高いほ場では過剰な施肥を避ける。
- 大豆栽培に適するpH6.0~6.5を目標に必ず石灰質資材を施用する。
- 地力の低下を補うため、発酵鶏ふんを施用する。

10aあたり施肥量

資材名等	施肥量
貝化石(粒)	150~200kg
発酵ケイフン	100~200kg
BB基肥084	普通田 20kg
(N:P:K = 10:18:24)	砂壤土、低地力田 30kg
	麦跡 上記 + 硫酸10kg

③ 種子消毒(病害虫防除の徹底)

対象病害虫	使用薬剤	処理方法
フタスジヒメハムシ アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 茎疫病 黒根腐病 紫斑病	クルーザーMAXX	塗沫処理 乾燥種子 1kgあたり 原液8mℓ

④ 適正な播種作業で、苗立本数を確保

- ★極端に早い播種を避ける。
- 一連の作業は圃場が乾いた状態で、好天日に一気にやる。
- ※作業手順(施肥同時播種の場合)



- 適正栽植本数の確保
目皿とスプロケットの組合せを確認し、適正播種量を入れる。

播種直後に基幹排水溝と額縁排水溝をつなぎ、排水を促進!

- ★苗立数を確保する。

【播種量の目安】 条間80cm「えんれいのそら」大粒種子(百粒重35.6gの場合)

目皿	播種時期	播種量目安(kg/10a)	目標栽植本数(本/10a)	スプロケット	
				目皿側	車輪側
B-2	5月6半旬~6月上旬	5.5~6.3	14,000~16,000	10~11	13
	6月中旬~(麦跡等)	6.3~7.1	16,000~18,000	9~10	14
B-22	6月上旬	5.5~6.3	14,000~18,000	14	9~10
	6月中旬	6.3~7.1	16,000~18,000	13	10

※B-22使用の場合は、圃場条件により播種量が増加します。 ※播種精度95%苗立数90%の場合

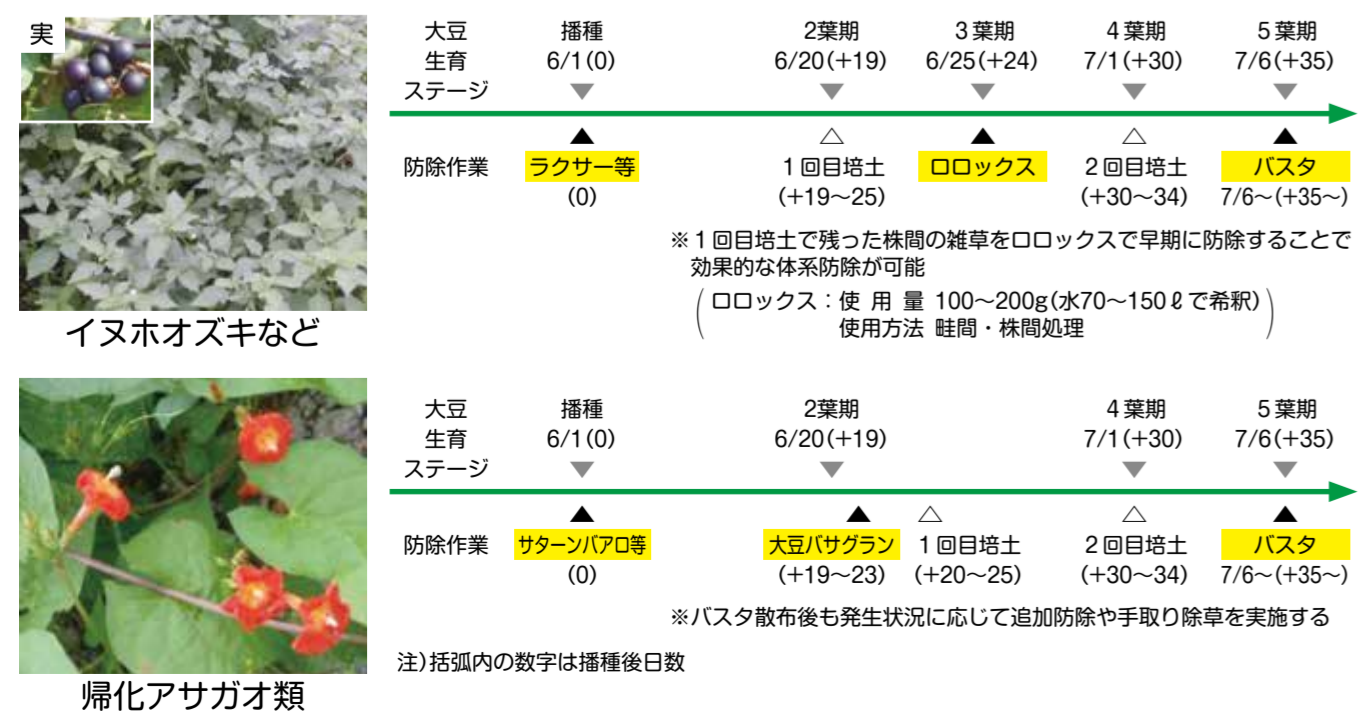
⑤ 雑草防除(除草剤散布)

農業使用基準を守りましょう。

散布時期	対象雑草	薬剤名	10aあたり散布量
播種後出芽前	一年生雑草	サターンバアロ粒剤	4~6kg
		サターンバアロ乳剤	600~1,000mℓ (水70~100ℓで希釈)
	一年生雑草 (ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科・アブラナ科を除く)	トレファノサイド粒剤2.5	4~6kg
		トレファノサイド乳剤	200~300mℓ (水100ℓで希釈)
一年生雑草	ラクサー乳剤	400~800mℓ (水100ℓで希釈)	
	プロールプラス乳剤	400~600mℓ (水100ℓで希釈)	
雑草生育期 (イネ科雑草の3~10葉期) (収穫30日前まで)	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ポルトフロアブル	200~300mℓ (水100ℓで希釈)
大豆2葉期~開花前 (収穫45日前まで)	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	100~150mℓ (水100ℓで希釈)
本葉3葉期以降 雑草生育期(草丈15cm以下) 雑草茎葉兼土壌散布 (畦間・株間処理)(収穫30日前まで)	一年生雑草	ロックス	100~200g (水70~150ℓで希釈)
大豆5葉期以降雑草生育期 (畦間・株間処理)(収穫28日前まで)	一年生雑草	バスタ液剤	300~500mℓ (水100~150ℓで希釈)
雑草生育期 (畦間処理)(収穫28日前まで)	一年生雑草	ザクサ液剤	300~500mℓ (水100~150ℓで希釈)

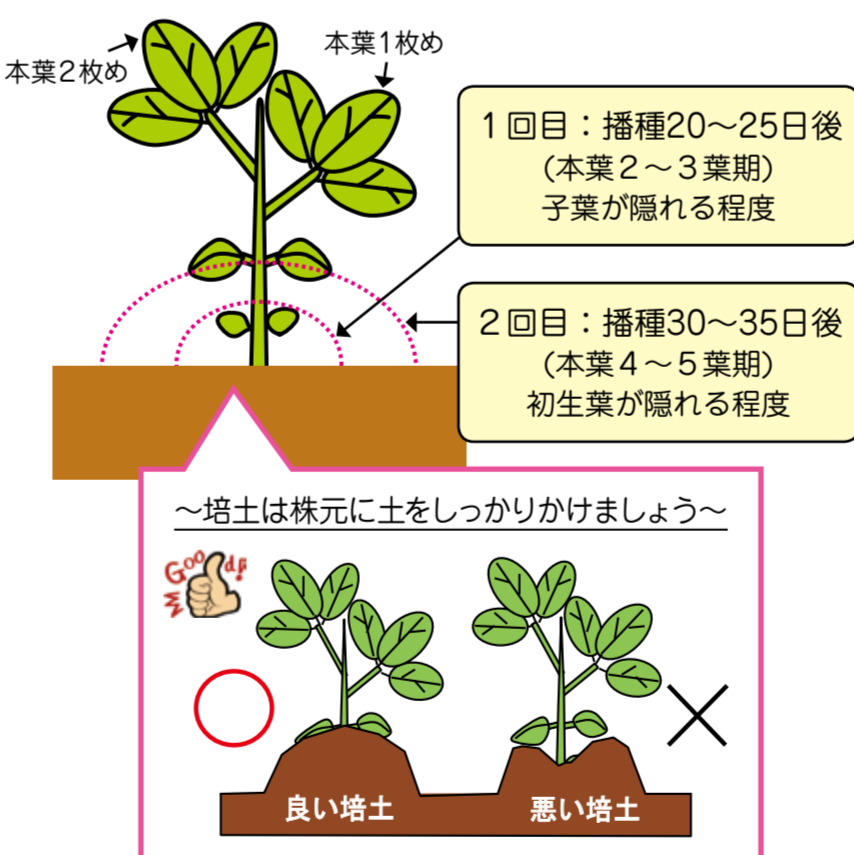
※ロックス、バスタ液剤、ザクサ液剤は、大豆にかからないように注意して下さい。

帰化雑草の防除体系



⑥ 的確な培土

- 晴れ間を逃さず確実に2回の培土を行い、根域を拡大し、湿害を回避する。



⑧ 病害虫防除

農業使用基準を守りましょう。

- ★有効薬剤を適期に適正量を確実に散布する。

	防除時期	対象病害虫	薬剤名	10aあたり散布量
基本防除	8月上旬	紫斑病 カメムシ類	トライトレボソ粉剤DL	3~4kg
	8月下旬	紫斑病 カメムシ類	Zポルトレボソ粉剤DL	3~4kg
	8月上旬	紫斑病 カメムシ類	トライフロアブル ダントツフロアブル	1000倍 } 150ℓ 2500倍 }
	8月下旬	紫斑病 カメムシ類	アミスタートレボソSE	1000倍 150ℓ
随時防除	7月下旬~ 8月上旬	ウコンノメイガ	ダントツH粉剤DL プレバソフロアブル5 ¹⁾	4kg 4000倍 150ℓ
	8月下旬~ 9月中旬	ハスモンヨトウ	トレボソ粉剤DL トレボソ乳剤	4kg 1000倍 150ℓ

1) プレバソフロアブル5を使用される場合は展着剤を加用して下さい。

⑦ 畦間かん水(開花期~9月上旬)

- ★早めの畦間かん水により干ばつを回避する。
- 開花期から9月上旬、3日間以上晴天が続いた場合、土壌の乾き具合に応じて適時かん水する。
- 圃場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。



⑨ 収穫作業

刈取り適期の目安



◎汚損粒は絶対に出さない。

- 青立ち株や大きな雑草は事前に抜き取っておく。
- 露がなくなってから刈取る(午前10時~午後4時まで)。
- 刈取り高さは地際から10cm以上とし、土を掻き込まない。

⑩ 次年度大豆作付圃場の準備

- 額縁排水溝の設置や心土破碎を行う。
- 緑肥作物の作付により地力増進を図る。
- 連作を避け、圃地化を進める。

※安全安心な大豆を生産・販売するために、『生産記録簿』は全て記入して、各営農経済センターへ提出して下さい。